



なぜ「三鷹」!? すかいらーく・松屋・大戸屋、外食3社の共通項



すかいらーくホールディングス、松屋フーズホールディングス、大戸屋ホールディングス…。いずれも 外食業界を代表する顔ぶれだが、この3社には意外なところで共通項がある。

コロワイド傘下の大戸屋、「三鷹」移転から10年

本社がいずれも「三鷹」にあるのだ。正確には所在地は三鷹市の隣の武蔵野市なのだが、最寄り駅となるとJR三鷹。駅の北側は武蔵野市で、松屋フーズの本社ビルは駅の目の前にある。大戸屋は歩いて2~3分、最も離れているすかいら一くでも10分ほど。

2020年の外食業界を最も騒がせたといえば、定食チェーンの大戸屋を巡る買収劇。仕掛けたのは居酒屋「甘太郎」「北海道」などを展開するコロワイド。敵対的TOB(株式公開買い付け)に発展し、ニュースで両社の対立がたびたび取り上げられたのは記憶に新しい。

大戸屋は1958(昭和33)年に池袋に"全品50円均一"の「大戸屋食堂」を開いたことにさかのぼる。 「三鷹」に本社事務所(大樹生命三鷹ビル内)を構えたのは2010年で、この時は新宿から移転した。

今回の買収劇の背景には大戸屋創業家の内紛が絡んでいるが、大戸屋はコロワイドの軍門に下り、コロワイドは11月初めに新社長を送り込んだ。大戸屋は9月末時点で14億円の債務超過に陥っており、コロワイド傘下で再建を目指す。

コロワイドが得意とするセントラルキッチン(食材の仕入れ・加工を工場で一括集中)方式と、大戸屋 の看板である店内調理をどう折り合いをつけるかも注目点だ。

「ごはん処大戸屋」…東京都三鷹市の店舗 すかいらーく、すでに半世紀

「三鷹」を半世紀近く本拠とするのはファミレス最大手、すかいら一く。1962年に創業した食品スーパーがルーツだが、業態転換してファミレスに進出し、1970年に第1号店を開店した。2006年に創業家によるMBO(経営陣による買収)で非公開化し、株式市場からいったん退場。2014年に再び上場(東証1部)するなどの変遷を経ながらも、「三鷹」一筋だ。

現在、「ガスト」「バーミヤン」「ジョナサン」などを中心に約3200店舗を展開する。ファミレスの代名詞だった「すかいらーく」の店名は2009年で終了。現在も社名として使う、すかいらーくは食品スーパー時代の創業地が「ひばりが丘団地」だったことにちなみ、ヒバリの英語名(skylark)からとった。

松屋フーズ、駅前に自前の本社ビル

牛丼大手3社の一角を占める松屋フーズは三鷹駅前の新本社完成に伴い、2006年に練馬区下石神井から 移転した。同社は1966年に練馬区内で中華飯店「松屋」として創業したことに始まる。主力ブランド の「松屋」を大黒柱とし、とんかつ、鮨、ステーキ、そばなど幅広い業態を展開中だ。

松屋フーズホールディングスの本社

すかいらーく、松屋は東証1部、大戸屋はジャスダックに上場するが、「三鷹」には非上場ながら居酒屋首位のモンテローザが本社を構える。「白木屋」「魚民」などで知られる同社だが、1996年に杉並区から三鷹駅北口に移転してきた。現本社ビルは、実はビジネスホテルだった建物。

モンテローザの本社 「三鷹」の利点は?

図らずも、外食大手が集結した格好の「三鷹」だが、その優位性は東京の西に広がる多摩地区の玄関口に位置し、交通至便であること。新宿から電車で20分ほど。JR三鷹駅には中央(本)線・総武線に加え、東京メトロ東西線が乗り入れる。しかも総武線と東西線は始発駅で、ほぼ確実に座って通勤できるのが魅力だ。

新型コロナ禍で苦戦を強いられる外食業界にあって、さて、「三鷹」銘柄はいかに反転攻勢に出ようとしているのか。

文:M&A Online編集部